

すなやま支援員 VOL.53 だより



令和4年9月 発行

発行者:砂山地域集落支援員 阿部久美子

拠点施設:ぎよぎよかい めてたや

住所:塩谷1181 電話・告知端末:62-7273

例年と比べ、何倍もの降水量で大変な被害となった新潟県北部地域豪雨災害。幸い砂山地域では、床上、床下浸水、家屋損壊などの被害はありませんでしたが、断水になり、その後も雨の日が続き、不安の中で過ごされたかと思います。



非常食のキノコごはん、五目ごはん、わかめごはん。
お湯を入れると15分で食べられますが、水だと出来上がるまでに1時間かかります。

避難所への支援体制が整うまで備蓄された水や食料で賄うこととなりますが、行政の職員も被災し、道路が寸断され、物資を運ぶことが出来ない場合も考えられます。必要なものは各々違うため、その全部を備えることは大変難しいです。

今回の豪雨災害の避難でも、携帯を充電するために、コンセントがふさがってしまったり、ペットも一緒に避難してきたが、他の人に迷惑がかかるのでは？と遠慮をしたり、体育館ではテレビやラジオがなく情報を得られないので、車の中で過ごしたりしている方もいらっしゃいました。コロナ禍ということもあり、隔離できる場所の確保など、実際に災害になってみないと気づけないことも。



～現在の避難所の様子～

甚大な被害で、長期避難を余儀なくされた方たちのために、用意された品物。ちょっとした言葉が添えられていて、気遣いが感じられます。地域の方から寄付されたものもありました。



断水続く中、地域の有志の方が、ご自宅の井戸水を提供してくれていました。集落点検中に見かけて気持ちがほっこりした瞬間でした。

8月3日、4日の避難所では、離乳食しか食べられないお子さん用の食事や、介護用品にまで気が回らず、個々の備えは自分を守るためにも大切だと改めて思いました。非常時は、予期せぬことの連続ですが、地域の皆さんで支え合い、思いやりをもって行動できたらいいなと思いました。

～災害時に自らの命は自らが守るために備えておくこと～

8月2日からの大雨で神林地区でも甚大な被害を受けました。3日の夜には平林小学校に避難所が開設され、一時は200人を超える人が避難されました。その後、断水も続き、「日常の当たり前」の生活が一変しました。

その思いを忘れないうちに、災害時に迷わず行動ができるように地域や家族で話し合っておくことが大切な命を守るにつながります。

1. **保存版**村上市洪水・土砂災害ハザードマップを確認する（R2年5月配布）

- ・災害のリスク、避難方法や災害に対する備えなどが掲載しています。
- ・市のホームページからも確認できます。

2. **非常持ち出し品や備蓄品を確認する**

- ・避難所に行く時は水、食料、薬、マスク等を持参する。
- ・備蓄品は3日分を目安に準備（飲料水は1人あたり9リットル程度）と言われています。
- ・今回は生活用水に困惑しました。トイレの問題が大きく、こんな時は非常用簡易トイレが重宝します。

3. **自宅の立地条件や災害の種類によって避難時期、避難場所を決定する**

- ・避難所や親せきの家に行く。
- ・要介護者はケアマネジャーと一緒に話し合っておく。

4. **地域のつながりを大切にする**

- ・逃げ遅れないように、隣近所の声掛けや協力が重要です。
- ・今回の断水の際も周囲の支え合いが大切だとしみじみ感じました。

5. **日頃から健康管理に気をつける**

- ・災害後は健康のことは二の次になりがちです。
- ・気づかないうちに健康状態が悪化することがあります。

今回の災害では区長、民生委員、防災士、消防団等多くの方に支援していただき感謝しています。また、地域のつながりの深さを実感しました。

今後も砂山地区の皆さんが笑顔で健康に過ごせるように関わっていきたいと思いますのでお気軽にお声掛けください。

神林支所地域振興課 地域福祉室 保健師
電話 66-6113

すなやま支援員だよりについてご意見、ご感想などお気軽にお問い合わせください。
メールアドレス sunayama-shien@sea.plala.or.jp